

Doc 1067 Cert. attached

No. 1

樞密院會議筆記

一 共產「インターナショナル」ニ對スル
協定、効力延長ニ關スル日本國
「ドイツ」國「イタリア」國「ハンガリー」
國、滿洲國及「スペイン」國間議定
書締結及右協定、秘密附屬協定、
廢止ニ關スル日本國「ドイツ」國間
秘密公文交換、件。

昭和十六年十一月二十二日(土曜日)午前十時十分開議

聖二臨御

出席員

原議長

鈴木副議長

大臣

東條内閣總理大臣
東條内閣大臣陸軍大臣

橋田文部大臣

小泉厚生大臣

岩村司法大臣

嶋田海軍大臣

東郷外務大臣

寺島逋信大臣

岸商工大臣

顧問官

石井顧問官

有馬顧問官

窪田顧問官

石塚顧問官

清水顧問官

南顧問官

奈良顧問官

荒木顧問官

五番

六番

八番

九番

十番

十一番

十二番

十四番

十七番

十八番

十九番

二十番

廿一番

廿二番

廿四番

No. 2

Doc 1067

No.3

Doc 1067

關 席 員

親 王

雍仁親王	一 番
宣仁親王	二 番
崇仁親王	三 番
載仁親王	四 番

大 臣

井野農林大臣	五 番
賀屋大藏大臣	六 番

顧問官

金子顧問官	七 番
-------	-----

松井顧問官	廿五番
松浦顧問官	廿六番
潮顧問官	廿七番
林顧問官	廿八番
深井顧問官	廿九番
二二顧問官	三十番
真野顧問官	三十一番
大島顧問官	三十二番
小幡顧問官	三十三番
竹越顧問官	三十四番
三土顧問官	三十五番
伊澤顧問官	三十六番
池田顧問官	三十七番

No. 4

Doc 1067

本頁

菅原顧問官

廿六卷

森山法制局長官

佐藤法制局参事官

阪本外務省政理局長

松本外務省條約局長

今松内務省警保局長

池田司法省刑事局長

報告頁

石井審査委員長

書記官長

堀江書記官長

書記官

諸橋書記官

高辻書記官

憲局大臣、設問ニ依リ、昭和十年十一月二十五日
 倫敦ニ於テ日獨兩國間ニ締結セラレタル秘密條約
 ノ一ナリナルニ對シ、協定ハ同十年十一月六日原
 審各國トシテ伊太利國之ニ參加シ次ニ洪牙利國
 滿洲國及西班牙國、參加ヲ見ルガ協定ニ於
 テハ其、効力ヲ五年トシ且締約國ハ右期間満了
 前、爾後ニ於テ此締約國協力、態様ニ付了解
 ヲ達スベキコトヲ規定シテリ而シテ右、期間
 ハ本年正月二十四日ヲ以テ満了スルコト爲レリ
 然レニ本年三月、獨々松岡外務大臣獨逸國ヲ
 訪問スル時同大臣ニ對シ獨逸國外務大臣ヨリ
 獨逸國ハ前記協定、効力延長ヲ希望スル
 旨、故意ヲ傳ハレシヲ、三月二十四日ニ至リ
 在米獨逸國大使ヨリ、正式ニ石協定、期間ヲ
 更ニ五年間延長スル旨提議シ來リ次ニ
 同月二十七日、駐米伊太利國大使ヨリ、同國政府モ
 亦石ニ同ニ獨逸國政府ト同意見ヲ示シ曰
 申入レリ帝國政府ニ於テ、表産「インク」
 ナシトシ、ニ對シ協定、目的トスル共進主
 義的破壞ニ對スル防衛、爲メ協力ヲ前議、
 協定締結後五年、ニ達スル今日ニ至リ、在
 獨逸ニ在ル政府、補成ニ止ル所ナリニ鑑ミ
 同國政府、効力延長ニ同意スル意思ヲ

1066

Doc 1067

No. 1067

No. 7

適當ト認メ十月三十日 在京獨伊兩國大使ニ
對シ兩國政府、申入ニ同意ナル旨回答スル
ト共ニ細目、交渉ヲ柏林ニ於テ行ハミル
コトト爲シタリ、爾來日獨伊三國間ニ折衝ヲ
續テタル結果本件議定書、成立ヲ得更ニ
三國共同ニ、洪牙利國、滿洲國及西班牙國
ニ對シ本協定、效力延長ヲ申入、各國、
同意ヲ得タルヲ以テ茲ニ本件議定書、
右六國政府代表者、署名ヲ見ルコトト爲リ
次ニ共產「インターナショナル」ニ對スル協定、秘
密附屬協定、日獨兩國間ニ存スルモノナル
ガ獨逸國政府、前陳協定、效力延長ヲ提議
セシ際秘密附屬協定、效力ハ延長セザル
コトトシタリ、且申添ヘタリ、帝國政府ニ於テ、
右秘密附屬協定、其締結當時ニ比シ國
際情勢乃ニ多大、變化アリテ今日之ヲ存續
スル、理由ヲキニ至ヒルヲ認メ、右獨逸國側、
提議ニ同意スルコトトシ、其趣旨、本件秘
密交換公文案ヲ作成シ議定書署名ト
同時ニ之ヲ交換スルコトト爲サントス、今各
取極ノ要旨ヲ述ブレバ左ノ如シ

第一 議定書

現行協定ニ於テ締約國ハ共產「インター

No. 8

Doc 1067

ナシヨナル、活動ニ付相互ニ通報シ必要ナル
 所衛措置ニ付協議シ且緊密ナル協力
 ニ依リテ該措置ヲ達成スベキコト及共產
 ノナシヨナルニ破壊工作ニ依リテ國內、外
 等ヲ脅カサル第三國ニ對シ本協定、總
 目ニ依ル衛措置ヲ執リ又ハ本協定ニ參
 加セシコトヲ共同ニテ警告スベキコトヲ約シ
 本協定、有效期間及爾後、措置等ヲ定メ
 別ニ附屬議定書ヲ以テ右、防衛措置ニ關ス
 ル各國當該官憲ノ協力方法其、他協定実
 施上ノ細目ニ因シ若干ノ條規ヲ設ケタルガ
 本件議定書、其ノ前文ニ於テ日、獨、伊、法、滿
 西ノ六國政府ハ共產「インターナショナル」活動
 ニ對スル防衛、爲相共ニ締結シタル協定、最モ
 效果的ナリシコトヲ認メ且右共同、敵ニ對ス
 ル緊密ナル協力ヲ爲スコトガ右諸國、一致
 セル利益ナルコトヲ確信シテ該協定、有效
 期間ヲ延長スルコトニ決シタル旨ヲ掲ゲ其
 ノ本文ニ於テ(一)右、共產「インターナショナル」ニ
 對スル協定ハ千九百四十二年(昭和十六年)十月
 二十五日ヨリ五年間延長セラレベキモノトシ(二)日
 獨伊三國政府、勸誘ニ依リ右協定ニ參加
 セシトスル諸國ハ其ノ參加宣言ヲ文書ヲ以テ

100100

100100

關於國家之建設，其最重要之點，莫如教育之普及。教育者，立國之本也。教育普及，則國民之智識，得以提高，而國家之強盛，亦隨之而進。故政府對於教育，應加意提倡，使人人皆有受教育之機會。此乃現代國家之責任也。

教育普及

KL0C 1067

No. 11

対スル共同牽制ノ爲日獨兩國間ニ取寄ル連繫ヲ設
ケルコトヲ訂約セル協定等ヲ公文交換ノ形式ニ依リ廢止
ントスルモノニシテ孰モ現下ノ國際情勢ニ鑑ミ蓋シ女當指
置ナリト謂フベク其條項モ亦別ニ支障ノ虞ナキモノト認ム
唯共產「インターナショナル」ノ目的ハ有ラウル手段ニ依ル現存
國家ノ破壊及暴壓ニ在リテ其各國内ニ於ケル活動ハ
實ニ脅威ニ値スベキモノナルガ故ニ本協定ノ實施ニ當リ政
府當局ニ於テハ之ガ規定ヲ一層活用シ國內ニ於ケル共產
主義運動ノ激化的掃蕩ニ努メラレンコト本官等ノ切ニ
希望スル所ナリ仍テ審查委員會ニ於テハ本案ハ此ノ
儘之ヲ可決セラレ然ルベキ旨右希望事項ト共ニ全會一
致ヲ以テ議決セリ 右審查會ノ結果ヲ報ス

二十一番 (清水)

本件議案ニ付テハ賛成ナルカ否ノ爲ニ同
タレ獨國ハ秘密附屬協定ノ廢止ヲ欲スルニ具ニ意圖ハ如何

又本年一月二十日締結セラル日ソ兩國間暫定協定第
二條ニハ「本議定書ハ日本國及ソヴエト社會主義共和

國聯邦ノ政府間ニ目下交渉中ニシテ千九百四十一年中
ニ締結セラル新條約ニ依リ代ラルベキモノトス」ト在リ本年甲

ニ締結セラル新條約ノ交渉經過如何更ニ本年六月政
府ハ日ソ兩國間ニ貿易及支拂協定ノ署名セラルタル

トラハ表シタル其ノ後ノ經過如何尚日ソ兩國間漫
業協定ノ締結ハ本案秘密附屬協定ノ廢止ニ因リ

何等サカノ影響ヲ受クルモノナルカ如何

十一番 (東郷)

秘密附屬協定ノ廢止ニ付テハ獨國

ヨリ特ニ詳細ナル説明ナカリシカ客觀的ニ之ヲ觀シハ獨國

Doc 106.7

No. 13

五番(東遷)審査報告中、希望事項ニ對シ政府、所信ヲ明確ニシタシ政府ハ從來ニ於テモ悠久ナル我國體ノ尊嚴ヲ保ツ爲共産主義運動ニ對シ峻嚴ナル取締ヲ爲シ居レルが今後ニ徹底的ニ之ヲ取締ニ當ルベシ之が爲ニハ本條約ノ條項ニ能ク限リニテ活用セシコトヲ期ス決議ニ先ダテ茲ニ政府、所信ヲ明確ニス

三番(東遷)本提案ハ大體ニ於テ今當ナリト思料ス但テ聊カ疑問、モズル所アルニ由リ茲ニ質問セシ從前ノ規定ニ於テハ第三國加入、手續規定テキヲ以テ今同ノ規定ナリトスルハ當然ナルが本案、手續ハ從來ノ慣行ト異ル所アリ即チ從來ハ三國が共同ニテ第三國参加ヲ勧誘シ而シテ關係國同、協定ニ依リ此ノ参加が實現シタルニ本提案ニ於テハ共同、字句ナク又單ニ獨國ニ参加宣言ヲ通達スルモトセラル從來防共協定ヲ始メ獨國ト、諸取極ニ於テ日獨伊三國ハ対等ナリしが茲ニ始メテ形ノ上ニ於テ獨國ヲ主トスルが如キコト爲リ聊カ遺憾エシトセ又第三國参加ノ持ニ之ヲ急クノ要ナカルベク從テ從前通り協定形式ニ由ラシムルニ差支ナカレバシ本提案ニ於テ参加、形式ヲ改メタル理由如何又勧誘ノ場合ニ於テル手續如何

十一番(東遷)他國参加ヲ勧誘スル場合ハ日獨伊三國同ニ協議ヲ遂ゲ意見一致ニナル上之ヲ爲サントスルモノニテ本提案ニ共同、字句ナキハ別ニ意味アルコトニ非ズ又獨國

No. 14

No. 1067

二対ニ通告ニ依リ参照ノ効ヲ発スルハ唯ハ使宣ノ同
題ニ遇ルモノ數國同條約ニ於テ一國ガ参加ノ手續ヲ
受ケルハ多ク其ノ事例アリ本案未協定場合ニ於テハ歐
洲ニ参照國多キニテ豫想ニ斯ノ如キ取扱ヲ爲スニ便宜
ニ考ヘタリ尚獨國ガ自伴兩國ニ比シ主クハ地位ニ立ツ
ニ非サレバ本案未協定ノ成文ニ日獨伴、三國語ヲ使用シ
殊ニ其ノ第二條ニ於テ防共協定、原署名國ガ日獨伴
三國ニ比シテ明記ニタビニ由リ明確ニミナヒ、駁ニ付テハ
政府ニ充分ノ注意ヲ拂ヒタル次第ニテ御危惧ノ要ナ
カレバ同趣ヲ對ス

三十番(海軍) 議定書ノ形式ヲ從來ノ慣行、如クヤリニ理
由如何事柄、便宜ニ獨國ガ幹事ヲ任ニ當ルハ可ハルモ
之ニ對スル通告ニ依リ効ヲ發スル點ニ懸念アリ
十二番(軍艦) 協定、詳述ニ依リ第三國ノ参加ヲ決スルガ
鄭重ニテ明確ニハ勿論ニ成ルベク多數國ヲ参加
セシムル便宜ニテ讀ム間易ニシタル次第ナリ
議長(軍) 也ニ御覽ニテ、改定第二讀會以下ヲ省略ニテ直ニ
採決ニテ本案賛成ノ各位、起立ヲ請フ

(全員起立)

議長(軍) 全會一致可決スルナリ

本日ハタニ同會入

聖上ノ御

(午前十時五十分開會)

議長 長
書記官 長
諸侯 長
高 正
道 兼
正 己

